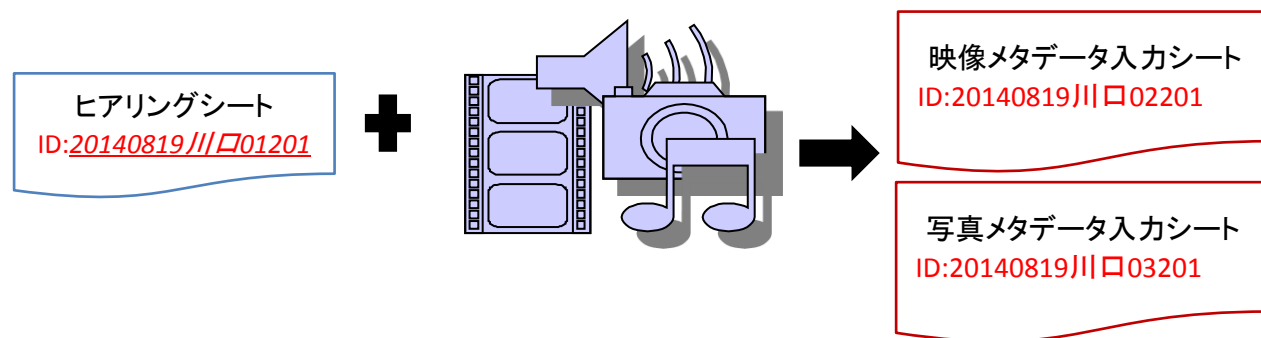


メタデータ入力補助シート

コンテンツ1種類ごとに1枚の本シートを作成して下さい。例えば、ヒアリングシートに映像と写真がある場合は、このメタデータ入力補助シートを2通作成して下さい。また、電子データ(EXCEL)で本シートを提供頂く場合は、コンテンツ識別子をファイル名にして下さい。例) 20140819川口02201.xls



No.	項目名	内容・説明	入力
1	タイトル	コンテンツに与えられる名称。災害の種類、年代などが分かるようにする。 例1: 昭和19年東南海地震・津波被災 例2: 昭和21年南海地震・地滑り被害 例3: 三木里郷土史	昭和19年東南海地震 体験談(文章)(山口綾子)
2	災害種別・年代	災害の種別を右側から選択して下さい。(複数選択可) 選択肢に該当しないものは、年代と災害名称を記入して下さい。	昭和19年(1944) 東南海地震 ▼ ▼ ▼ ▼
3	コンテンツ識別子(ID)	インタビュー映像、音声、写真等のコンテンツを一意に現す識別子を付ける。 ○○○○○○○○○ ○○ ○○ ○○○ 取材日 名前 番号 旧市町村CD 全県が対象の場合、市町村CDには[000] 例: 20140819川口02201	20150831河村01461
4	関連識別子(Link ID)	関連するコンテンツがあれば、その識別子を記入する。(複数可) ヒアリングシートがあれば、ヒアリングシートの識別子を記入する。 例: 20140819川口01201	体験談文章 20150831河村01461
5	権利情報・利用条件	対象コンテンツの利用条件、権利情報があれば入力して下さい。ヒアリングシートの個人情報公開とは、別です。 例1: 二次利用を禁止(コピー不可) 例2: 無断利用禁止 例3: 公開可	公開可
6	著作権者	写真・文献等著作権が主張されているコンテンツは、記載して下さい。不明の場合は、「不明」と記入する。 例1: 撮影・著作権 伊藤 宏 例2: 不明	
7	公開者・出版社	公開元を主張する場合は、記載して下さい。基本は、三重県・三重大学みえ防災・減災センターになります。 例えば、「伊勢新聞社」の名前で公開するのであれば公開に応じる」など	

8	提供者・寄贈者	コンテンツの提供者の情報を記載して下さい。 著作権者以外からコンテンツの提供を受けた場合、提供者名、連絡先、著作権者の連絡先(分かれば) 例:〇〇図書館において該当部分を複写	
9	原典資料の所在	文献等から抜粋した資料で原典の所在が分かるものについては、記載する。 例:海の博物館所蔵庫	
10	撮影日・作成日	コンテンツの撮影や作成日を記載した日を入れて下さい。体験談の場合、インタビュー・ヒアリングを実施した日を記載して下さい。 例:20140909	20150831
11	掲載・公開日	不要 システムで付与します。	
12	撮影場所・作成場所	体験談ヒアリングシートの場合は、不要です。当時の被災写真等のコンテンツ提供を受けた場合に分かる範囲で記入する	
13	場所情報	体験談ヒアリングシートの場合は、不要です。その他のコンテンツの場合記入分かる範囲で記入して下さい。 例1:34° 20'34.9"N 136° 41'36.0"E 例2:大紀町錦 例3:34.002134,136.208834(代表点)	第二国民学校(現浜田小学校)
14	キーワード、内容	コンテンツの内容を端的に表すキーワードを出来るだけ多く記入する。(複数可) 例:津波、倒壊、昭和東南海地震、煙突	昭和東南海地震、浜田小学校
15	資料種別	コンテンツの種別を記入する。 例1:写真 例2:動画 例3:音声 例4:文献	文章
16	ファイル名/ファイル形式	コンテンツがデジタルメディアに記録されたモノの場合、その記録ファイルの形式とファイル名を記入する。ファイル名は、識別子(ID)を使用して下さい。同種の写真などが複数ある場合は、ファイル名に連番(XX)を加えて下さい。 例1:20140819川口02201.mpg 例2:20140819川口03201_01.jpeg 例3:20140819川口03201_02.jpeg	20150831河村01461.docx
17	説明・要約・注記	コンテンツの要約・説明・注記などを記載して下さい。コンテンツを説明する要約文章を記入コンテンツ表示時に「タイトル」の下に表示されるリード文。25文字から100文字程度でお願いします。	白峰圭子(当時5歳) 知り合いの家で子ども3人で留守番中に地震が発生、家のがたがた揺れはじめ、窓ガラス、襖、障子もはずれ、家の外の防火用水の水は高波の如く、空から水が降ってくるようなあふれ方だった。部屋の隅が安全だと思い、静まるのを待った。 親が帰ってきて、子どもの顔を見て安堵しているようだった。わたしは留守を守るという責任を果たし、誇らしい気持ちだった。